



**Nobel
Prize
Dialogue**

Science & Society



ノーベル・プライズ・ダイアログ 東京 2017

Nobel Prize Dialogue Tokyo 2017

知の未来～人類の知が切り拓く人工知能と未来社会～
The Future of Intelligence

主催：



目次

開催概要	p. 2
主催者開会挨拶	p. 3
プログラム	p. 5
パネリスト	p. 9
参加者データ	p.13
アンケート結果	p.14
主催者	p.15
運営委員会	p.16
ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017 パートナー企業	p.17
主催者広報活動実績	p.18
制作物	p.19
Nobel Week Dialogue（ノーベル・ウィーク・ダイアログ）と日本開催の経緯	p.20

当日の様子は以下の URL からご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/nobeldialogue>



開催概要

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017 は、学術・科学技術への社会の関心・理解度を高め、科学技術・学術の振興に寄与することを目的として、若手研究者や産業界を含む広く一般を対象に、国内外のノーベル賞受賞者5名を含む36名の著名な研究者・有識者に登壇いただき、公開での講演やパネルディスカッション等を通じた科学と社会との対話を実施したものです。当日は、1,000名を超す参加者にご来場いただくとともに、インターネットによるライブ中継を行い、世界中の視聴者に議論の様子が配信されました。

(<https://www.youtube.com/nobeldialogue>)

同シンポジウムは、ノーベル財団の広報を担うノーベル・メディア AB がスウェーデンにおいて2012年から毎年ノーベル賞授賞式の前日に開催している一般向けの公開シンポジウムである”Nobel Week Dialogue”（ノーベル・ウィーク・ダイアログ）について、ノーベル側から日本での開催の可能性について打診があり、その後同財団や関係機関等との協議の結果、2015年にスウェーデン国外では初めてノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2015として日本において実施されました。そして、このシンポジウムの成功を受け、第2回目となる今回のシンポジウムを開催しました。

同シンポジウムは、日本学術振興会とノーベル・メディアとの密接な協力関係の下、開催されたものであり、学術分野における日本の国際的なプレゼンスを高める上で重要な機会となりました。またノーベル賞受賞者をはじめとする著名な研究者・有識者が一同に会し、社会一般と対話する貴重な機会となり、学術に対する社会の関心・理解度を高めるという目標を達成した画期的な科学コミュニケーション活動となりました。

本報告書は、同シンポジウムの概要についてとりまとめたものであり、社会一般の皆様には科学技術・学術に対する関心を高めていただくとともに関係者各位に広くお役立ていただければ幸いです。

1. 会議の名称

和文名：ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017

英文名：Nobel Prize Dialogue Tokyo 2017

2. 主催

独立行政法人日本学術振興会／ノーベル・メディア AB

3. 開催日

2017年2月26日（日）9:00～17:30

4. 開催場所

東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内3-5-1）

5. テーマ

和文名：知の未来～人類の知が切り拓く人工知能と未来社会～

英文名：The Future of Intelligence

主催者開会挨拶



安西 祐一郎

独立行政法人日本学術振興会 理事長

「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017」へご来場の皆様に歓迎、感謝の意を表するとともに、国内外からお集まりいただいた多くの方々にお目にかかることができ、大変嬉しく存じます。また、アジア、アフリカ諸国から100名以上の博士課程学生の方々にもお越しいただいております。皆様ご参加いただき、まことにありがとうございます。

このイベントは、ノーベル賞授賞式の前日にスウェーデンで開催される「ノーベル・ウィーク・ダイアログ」に端を発するもので、昨年12月に私自身も参加しました。スウェーデンのイベントは、ノーベル財団の関連会社であり、本日のイベントの共催機関でもあるノーベル・メディアによって主催されております。

本日のイベントは、スウェーデン国外では2回目の開催となるノーベル・プライズ・ダイアログです。第1回は日本学術振興会とノーベル・メディアの共催により2015年にこの会場（東京国際フォーラム）で開催されました。本日は、2015年12月にスウェーデンで開催されたダイアログに引き続き、「知の未来」に焦点を当てます。

知性は未来に向けてどのように発展していくのでしょうか。人工知能分野の目覚ましい発展により、機械の知能が人間の「知」に取って代わってしまうのではと思う人もいるかもしれません。しかし、詰まるところ人間の「知」とは何なのでしょう。人間の「知」は、科学を推進するための、広大な宇宙を探究し、そして物質の最小構成要素を発見するための能力を与えてくれます。人間の「知」によって生み出された多くの偉業が、ノーベル賞によって広く知られています。

それでは、機械の知能とは何なのでしょう。それによって科学を推し進めることはできるのでしょうか。また機械の知能が宇宙を探究したり、素粒子や新物質を発見したりすることで、ノーベル賞が授与されるのでしょうか。

私たち人類は、「心」を持っています。脳と身体が結びついていると同時に、「心」は新しい知識と知性を創造する力を持っています。では、進化の過程は心が生まれてくることに、どのように影響したのでしょうか。その他にも多

くの疑問があります。私たちは東洋や西洋、すなわち世界の文化圏によって異なる種類の知性を持っているのでしょうか。私たちは、いわゆる理性的な知性以外にも、感情的知性、社会的知性を持っているのでしょうか。

人工知能は人間の「知」を超えるのか、この問題は長い間問われてきました。私たちは人工知能を恐れるべきなのでしょうか。また、倫理的、法的、社会的問題に対してはどのように対処すべきなのでしょうか。他方で、人工知能の技術から得られる社会的、経済的効果によって、よりよい社会、よりよい世界を創り出していくことができるのでしょうか。人工知能は、産業、医療、物流、サービスなど、経済社会のあらゆる分野にどのように関わっていくことができるのでしょうか。

私自身、長年人間の「知」や機械の知能の分野に携わってきました。その経験から、研究者としてこれらの疑問に対する答えにいくらかたどり着いていますが、ぜひ皆さまにもこれらの問題について考えていただきたいと思います。本日は長い1日になりますが、これらの疑問や問題について考え、議論するにはあまりに短い時間です。人間の「知」や機械の知能の本質、またこれらが科学や社会など私たちにとどのような影響を与えるかについて思いを巡らせるきっかけを与えてくれるこのイベントに、私は大きな期待を抱いています。喜ばしいことに、5人のノーベル賞受賞者を含む36人の傑出した有識者たちが、世界中から本日のダイアログに駆けつけてくださっています。

最後になりましたが、本日の示唆に富むイベントをはじめとして、日本学術振興会との長きにわたる協働と友好に対し、ハイケンシュテン氏が代表を務めるノーベル財団、マティアス・フィレニウス氏が代表を務めるノーベル・メディアに感謝いたします。また、スウェーデン大使館、マグヌス・ローバック大使のご支援にも感謝の意を表します。もちろん、特別スポンサー、スポンサーの各企業による援助にも心から感謝いたします。私自身、科学と社会の架け橋となる本日のダイアログを心待ちにしております。それでは皆さま、ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017をお楽しみください。

※本稿はノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017当日の開会挨拶を翻訳したものです。



Photo: Kari Kohvakka

ラーシュ・ヘイケンシュテン

ノーベル財団 専務理事

みなさまに歓迎の意を表します。人工知能をテーマに、第2回目となるノーベル・プライズ・ダイアログ東京を本日開催でき、このように多くの皆様にご来場いただいたことをとても喜ばしく思います。

ノーベル賞は、恐らく世界で最も敬意を集め、かつ最も広く認知されている賞と言えるでしょう。ただ、その賞の背景にある人物までを、よく知られているわけではありません。

アルフレッド・ノーベルはダイナマイトの発明者ですが、熱心な研究者であり、発明者であっただけでなく、今日我々が言うところのグローバル化と国際協力を真に信じて世界中を舞台に活躍する実業家でした。また、自然科学に限らず哲学、人類学、文学、そして平和学にも大いに興味を示した人でした。彼の人生は、啓蒙の理想というべきものでした。知識を探究し、基本的な人間の価値を信じていました。彼の人生や彼自身に魅了されずにはいられないでしょう。

1896年に公開されたノーベルの遺言は大きな驚きを呼びました。それは「前年中、人類に多大な利益をもたらした者に賞を与えよ」というものでした。性別も国籍も問わないという、当時としては珍しいことでした。科学における新発見、良い文学作品の創出、平和への貢献を行った者に賞を授与することで、他の賞との違いを明確にしようとした。彼は人々の競争心を煽ろうとしたわけではなく、より良い世界を夢見ていたのです。

アルフレッド・ノーベルは、人や組織が世界に関心を持ち、より良くしていくことができるロールモデルとして知られていきました。その精神に則り、我々はノーベル賞受賞者と共にイベントを開催することで、若い方に限らず、皆さんを科学や文学、平和学など、ノーベルの探究心へ引き込みたいと考えています。本日は5名もの受賞者が登壇します。受賞者の協力に感謝申し上げます。

日本はこのようなイベントを開催するのに最適な国と言えるでしょう。日本は科学に大きな関心を寄せる世界で最大の民主主義国の1つであり、また20名以上ものノーベル賞受賞者を輩出した、当方にとっても重要な国の1つです。湯川先生、田中先生、大隅先生、山中先生、そして利根川先生のような人々はまさにアルフレッド・ノーベルが

切望したロールモデルだと言えるでしょう。

本日のシンポジウムのテーマ「知の未来」は大変魅力的なものです。人類の知性を基礎とする今日の開発活動を扱うもので、数学、科学技術、神経科学などの研究分野にも関連します。世界は今、間違いなく変化に向かい、またこの分野において今も変化し続けています。人工知能は現在、ますます多くの分野においてすでに利用されています。今後我々が行っている多くのことが機械に取って代わられるでしょうが、それと同時に、「知性とは何か」、「何をもって人間たらしめるか」という私たちの考えも変化していくでしょう。変化を続けるこの世界において、科学と社会の橋渡しを目的とするノーベル・プライズ・ダイアログにふさわしいテーマを考えることは容易なことではないのです。

締めくくりとして、少し堅いお話を申し上げます。昨今の世界では、ノーベルが支持した多様な価値観は脅かされています。ここ数年、我々はヨーロッパや北米において、今まで歩んできた道りを逆戻りするような出来事に直面してきました。より多くの国際協力が必要とされているにもかかわらず、そのことに対し疑問が投げかけられています。同じことが科学研究においても言えます。事実を受け入れず、気候変動を否定するようなことは、まさに恐るべき事例です。今日では、人々が持つ負の側面に訴えかけることで支持を得ている有力な政治家もいるのです。

科学的、人間的で平和な世界でこそ、我々は何かに熱中したり、アルフレッド・ノーベルの意志を継ぎ、彼が信じたことのために取り組んだりすることができます。この点において、我々は日本に期待を寄せています。高い科学性と人間的な伝統を持った民主主義国は、現在の世界においてより大きな役割を担っています。

改めて、ノーベル・プライズ・ダイアログ東京へようこそ。本日のイベントを大変楽しみにしております。きっとアルフレッド・ノーベルもそうでしょう。

※本稿はノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017 当日の開会挨拶を翻訳したものです。

プログラム

1. オープニング：未来の「知」に向けて

ホール B7

9:00 – 9:15	開会挨拶 独立行政法人 日本学術振興会、ノーベル財団、文部科学省
-------------	-------------------------------------

2. 「知」の地平を超えて：未来の「知」とは？

ホール B7

9:15 – 9:35	講演“人間の「知」と科学・技術の偉業 (1)” ジョージ・F・スムート
9:35 – 9:50	インタビュー“人間の「知」と科学・技術の偉業 (2)” ジャン=ピエール・ソバージュ インタビュアー：竹内 佐和子
9:50 – 10:10	インタビュー“人間の「知」とは何か？ (1)” –進化がもたらす人間の「知」 – 長谷川 眞理子 インタビュアー：アダム・スミス
10:10 – 10:30	講演“人間の「知」とは何か？ (2)” –生物としての人間の「知」 脳研究の最先端 – 利根川 進
10:30 – 10:40	講演“人間の「知」とは何か？ (3)” –人間の「知」が築く技術・経済・社会 – 榊原 定征
10:40 – 11:00	インタビュー“人間の「知」とは何か？ (4)” –人間の「知」が構築する社会システムと文明 – エリック・S・マスキン、スチュアート・J・ラッセル インタビュアー：竹内 佐和子
11:00 – 11:30	コーヒーブレイク

3. 未来の「知」への挑戦

ホール B7

11:30 – 11:50	講演“人工知能の未来と挑戦 (1)” –コンピューターサイエンスと機械学習 – トム・M・ミッチェル
11:50 – 12:10	インタビュー“人工知能の未来と挑戦 (2)” –機械学習と脳科学 – ピーター・ノーヴィグ インタビュアー：川人 光男
12:10 – 12:30	対談“科学技術の挑戦 (1)” 金出 武雄、ジャネット・M・ウィン
12:30 – 12:50	パネルディスカッション“科学技術の挑戦 (2)” エドバルド・I・モーセル、ニコル・デュワンドル、フランク・A・パスカル モデレーター：アダム・スミス
12:50 – 13:10	インタビュー“人間のこころ” 横田 南嶺 インタビュアー：美馬 のゆり
13:10 – 14:30	昼休憩

4. 未来の「知」を創る：人工知能・ICT技術の社会への適応

14:30 – 15:15	分科会1 ホール B7 1A：企業・ビジネスのイノベーション エリック・S・マスキン スチュアート・J・ラッセル 田村 泰孝 ジャネット・M・ウィン モデレーター：辻井 潤一	分科会2 ホール B5(1) 2A：モビリティとアクセシビリティ ジャン=ピエール・ソバージュ 浅川 智恵子 ウィリアム・J・ダリー 内山田 竹志 モデレーター：アダム・スミス	分科会3 ホール B5(2) 3A：人間と人工知能 ジョージ・F・スムート トニー・ベルパエム マーガレット・A・ボーデン 下條 信輔 モデレーター：國吉 康夫
15:15 – 15:30	休憩		
15:30 – 16:15	分科会1 ホール B7 1B：産業構造のイノベーション エリック・S・マスキン 安宅 和人 ピーター・ノーヴィグ ウォルフガング・ヴァルスター モデレーター：美馬 のゆり	分科会2 ホール B5(1) 2B：健康と福祉 エドバルド・I・モーセル シャラム・エバドラヒ 北野 宏明 モデレーター：アダム・スミス	分科会3 ホール B5(2) 3B：ELSI（倫理的・法的・社会的）課題 ジョージ・F・スムート マーガレット・A・ボーデン ニコル・デュワンドル 萩田 紀博 モデレーター：岩野 和生
16:15 – 16:45	コーヒープレイク		

5. 未来に向けて

ホール B7

16:45 – 17:05	政策対話（日独米の人工知能政策） 安西 祐一郎、キース・マズーロ、ウォルフガング・ヴァルスター
17:05 – 17:25	ノーベル賞受賞者による総括パネルディスカッションー人間の「知」とは？ 利根川 進、ジョージ・F・スムート、エリック・S・マスキン、エドバルド・I・モーセル、ジャン=ピエール・ソバージュ モデレーター：アダム・スミス
17:25 – 17:30	閉会挨拶 ノーベル・メディア AB、独立行政法人 日本学術振興会

会場

東京国際フォーラム 住所：東京都千代田区丸の内 3-5-1 URL：<https://www.t-i-forum.co.jp/>



Photo: Alexander Mahmoud





分子マシンはやがて、情報処理において重要な役割を担い、人工知能にとって欠かせないものとなるはずです。

ジャン＝ピエール・ソバージュ ストラスブール大学名誉教授
(2016年ノーベル化学賞受賞)



理論上、AIは人間を超えられますが、そこに「意志」があれば、AIは人間の知性を超えようとはしないでしょう。

マーガレット・A・ボードン サセックス大学認知科学研究教授



インダストリー 4.0 では、ロボットが人々と分業し、同じチームの中で協働しています。AIに限らずすべてにおいて、これが未来のあり方なのです。

ヴォルフガング・ヴァルスター ドイツ人工知能研究センターCEO&サイエンティフィック・ディレクター



ロボットがノーベル賞受賞に関心を持ってくれる日が来ることを期待しましょう。

利根川 進 国立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センター長
(1987年ノーベル生理学・医学賞受賞)

パネリスト



利根川 進

1987年ノーベル生理学・医学賞
理化学研究所脳科学総合研究センター
センター長

免疫学研究における卓越した功績により1987年ノーベル生理学・医学賞受賞。現在は学習と記憶に関する神経科学の研究に従事。



ジョージ・F・スムート

2006年ノーベル物理学賞
カリフォルニア大学バークレー校 教授

宇宙マイクロ波背景放射（CMB）などの宇宙物理学的ソースを用いた初期宇宙（宇宙論）の研究に従事。宇宙論および宇宙物理学分野の様々な科学的目標の達成を目指している。これまでに数多くの研究所を設立。2006年にノーベル物理学賞を受賞。



エリック・S・マスキン

2007年アルフレッド・ノーベル記念
経済学スウェーデン国立銀行賞
ハーバード大学 教授

マサチューセッツ工科大学、プリンストン高等研究所を経て現在ハーバード大学教授。2007年アルフレッド・ノーベル記念経済学スウェーデン国立銀行賞共同受賞。



エドバルド・I・モーセル

2014年ノーベル生理学・医学賞
ノルウェー科学技術大学 教授

主な研究分野は大脳皮質における神経ネットワークのコンピュータによる測定。脳が自身の位置を把握する仕組みに関する細胞を共同研究者らと発見し、2014年にノーベル生理学・医学賞を受賞。



ジャン＝ピエール・ソバージュ

2016年ノーベル化学賞
ストラスブール大学 名誉教授

フランス国立科学研究センター及び大学において研究を重ね、分子機械の設計、合成に係る功績により2016年にノーベル化学賞を受賞。無機光化学や人工光合成の分野にも多大な功績を残している。



安西 祐一郎

独立行政法人日本学術振興会 理事長
人工知能技術戦略会議 議長

学術研究を支援する資金配分機関（独）日本学術振興会理事長。専門は認知科学、情報科学。学習と思考の認知過程、人間・ロボット・コンピュータのインタラクション、社会情報基盤等に関する先駆的研究者として知られる。政府の人工知能技術戦略会議の議長。



浅川 智恵子

IBM リサーチ IBM フェロー

1985年日本IBMに入社。情報アクセスビリティの研究に従事。2004年東京大学工学系研究科博士課程を修了、工学博士。2009年IBMフェロー就任。2013年紫綬褒章受章。現在CMUの客員教授を兼務し、リアルワールドアクセスビリティの研究に従事。



安宅 和人

ヤフー株式会社
チーフストラテジーオフィサー

マッキンゼーを経て現職。イェール大学脳神経科学 Ph.D。データサイエンティスト協会理事、慶應義塾大学 SFC 特任教授、人工知能産業化ロードマップ副主査。脳、経営、データをまたぐ経験を活かし AI × データ時代における人材育成、産業革新に幅広く関与。



トニー・ベルパエム

ブリマス大学 教授

2005年よりブリマス大学(英国)に所属。2016年以降はゲント大学(ベルギー)にも奉職。ブリュッセル自由大学(ベルギー)において博士号取得。



マーガレット・A・ボーデン

サセックス大学 認知科学研究教授

サセックス大学にて世界初の認知科学学部の創設に貢献。医学、哲学、心理学の学位を有し、これらの学術分野とAIの融合を研究。



ウィリアム・J・ダリー

エヌビディアコーポレーション
チーフサイエンティスト

カリフォルニア工科大学、ベル研究所を経て、スタンフォード大学コンピュータサイエンス・電気工学教授(1997-2009)、コンピュータサイエンス学科長(2004-2009)、MIT教授(1986-1997)を歴任。



ニコル・デュワンドル

欧州委員会共同研究センター
エンジニア & フィロソファー

欧州委員会にてハイパーコネクティビティの社会的普及や問題などを担当。オンライン・イニシアティブの中心的メンバー。



シャラム・エバドラヒ

IBMワトソンヘルス
バイス・プレジデント

現職に就く以前はIBMヘルスイノベーション研究初代グローバル責任者として、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、米国のIBMの研究所を統括。



萩田 紀博

株式会社国際電気通信基礎技術研究所
知能ロボティクス研究所 所長

ヒューマン・ロボット・インタラクション、スマートネットワークロボット等の研究に興味。人と機械の調和的協働ができる知的システムに関するJST CREST研究総括。



長谷川 真理子

総合研究大学院大学 理事 & 教授

1983年東京大学大学院理学系研究科人類学専攻博士課程修了。1992年イェール大学人類学部客員准教授、2000年早稲田大学政治経済学部教授、2006年総合研究大学院大学葉山高等研究センター教授、2014年同大学副学長、2016年より現職。



岩野 和生

株式会社三菱ケミカルホールディングス
Chief Digital Officer

米国プリンストン大学Computer Science学科よりPh. D.取得。日本IBM東京基礎研究所所長、大和ソフトウェア開発研究所所長、三菱商事株式会社ビジネスサービス部門顧問、科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェローなどを歴任し、2017年より現職。



金出 武雄

カーネギーメロン大学
ワイタカー冠全学教授

米国カーネギーメロン大学にて、1992-2000年、ロボット研究所所長を務める。2006年には「Quality of Life Technology (QoLT) Center」を設立し、センター長に就任。フランクリン協会パワー賞科学部門(2008年)、京都賞(2016年)など受賞。



川人 光男

株式会社国際電気通信基礎技術研究所
脳情報通信総合研究所
所長 & ATR フェロー

1976年東大理学部物理学科卒業。1981年阪大大学院博士課程修了。同大助手、講師を経て、1988年よりATR。2004年ATRフェロー、2010年より現職。2016年より理研AIPセンター特任顧問などを兼任。専門は計算論的神経科学。2013年紫綬褒章受章。



北野 宏明

株式会社ソニーコンピュータサイエンス
研究所 代表取締役社長

ソニーコンピュータサイエンス研究所
代表取締役社長。特定非営利活動法人
システム・バイオロジー研究機構会長。
沖縄科学技術大学院大学 教授。ソニー
株式会社執行役員コーポレートエグゼ
クティブ。



國吉 康夫

東京大学 教授 & 次世代知能科学研究
センター (AI センター) センター長

東京大学次世代知能科学研究センター
(AI センター) 長を2016年より、理
化学研究所脳科学総合研究センター—
トヨタ連携センター長を2012年よ
り兼務。1991年工学博士(東京大
学)、同年電子技術総合研究所研究員、
2001年より東京大学。



キース・マズーロ

メリーランド大学 情報学部長
ネットワーキング情報技術研究開発
プログラム 元ディレクター

過去にホワイトハウス科学技術政策局にて
ネットワーキング情報技術研究開発プロ
グラム (NITRD) を指揮。米国国立科学財団
(NSF) コンピュータ情報科学工学局 (CISE)
コンピュータネットワークシステム (CNS)
部元ディレクター。



美馬 のゆり

日本科学未来館 元副館長
公立ほこだて未来大学 教授

学習科学者(情報工学、認知心理学、教
育学)、学習環境デザイナー。公立ほ
こだて未来大学および日本科学未来館の
設立計画策定に携わる。設立後は、大
学では教授、科学館では副館長(2003-
2006)を務める。元 NHK 経営委員。



トム・M・ミッチェル

カーネギーメロン大学
フレドキン冠全学教授

専門は機械学習および認知神経科学。世
界で初めて、大学における機械学習学
部を立ち上げ、学部長を務める。著書
『Machine Learning』は教科書として
広く使われている。



ピーター・ノーヴィグ

Google リサーチ部門 ディレクター

過去にグーグルのコアサーチアルゴリ
ズムグループのリーダーとして活躍。人
工知能分野の代表的なテキストである
『Artificial Intelligence: A Modern
Approach』の共著者。AAAI、ACM、
カリフォルニア科学アカデミー、米国
芸術科学アカデミーのフェロー。



フランク・A・パスカル

メリーランド大学 法学教授

米国国立科学財団が後援するビッグ
データ、倫理、社会カウンスルメンバ
ー。イェール大学情報社会プロジェクト
のアフィリエイトフェロー。著書に『
The Black Box Society』(データ規制に
関する法律および社会理論)がある。



スチュアート・J・ラッセル

カリフォルニア大学バークレー校
コンピュータ科学教授

カリフォルニア大学バークレー校の人
間共存型 AI センター所長。AI 研究の第
一人者であり、この分野の標準テキス
トを執筆。



榊原 定征

一般社団法人日本経済団体連合会 会長

1943年生まれ。1967年に名古屋大
学大学院工学研究科応用化学専攻修了。
2002年より、東レ社長、2010年に
会長。2015年より相談役最高顧問。
経団連では、2007年から2011年ま
で副会長および産業技術委員会委員
長を務め、2014年に会長に就任。



下條 信輔

カリフォルニア工科大学
ポルティモア冠教授

カリフォルニア工科大学生物学部 / 計算
神経系 教授。東京大学文学部心理学科卒業
(78)、MIT 大学院修了、Ph.D (85)、東
京大学博士課程修了。日本学術振興会特別
研究員、スミス・ケトルウェル研究所研究
員を経て、東京大学総合文化研究科助教
授(89)、専門は認知神経科学。



アダム・スミス

ノーベル・メディア A B チーフ・サイエンティフィック・オフィサー

ノーベル・メディアのチーフ・サイエンティフィック・オフィサーとして、ノーベル・ウィーク・ダイアログおよびノーベル・プライズ・ダイアログの企画を担当。学術研究および学術出版に従事した経歴を持つ。



竹内 佐和子

文部科学省 顧問
パリ日本文化会館 前館長

フランスで応用数理経済学の研究をスタートし、後に京都大学教授に就任。科学と芸術・文化の結合に強い関心を持つ。工学博士・経済学博士。



田村 泰孝

株式会社富士通研究所 フェロー

1977年東京大学工学部電子工学科、1982年同大学院博士課程を修了。同年(株)富士通研究所に入社しジョセフソン素子、量子効果素子等の研究を行った後、CMOS回路の研究に従事。同社フェロー、工学博士、第51回大河内記念賞受賞、IEEE フェロー。



辻井 潤一

国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター 研究センター長

1973年 京都大学大学院修士課程了、助教授。1988年マンチェスター科学技術大学 (UMIST) 教授。1995年東京大学理学部教授同大学院情報理工学系研究科教授。2011年マイクロソフト研究所アジア首席研究員。2015年より現職。マンチェスター大学教授兼任。



内山田 竹志

トヨタ自動車株式会社 取締役会長

2013年にトヨタ自動車会長に就任。世界初量産ハイブリッド車プリウスのチーフエンジニアを務め1997年にプリウスを発売。トヨタのハイブリッド車は2016年に生産累計900万台を達成した。



ヴォルフガング・ヴァルスター

ドイツ人工知能研究センター CEO&サイエンティフィック・ディレクター

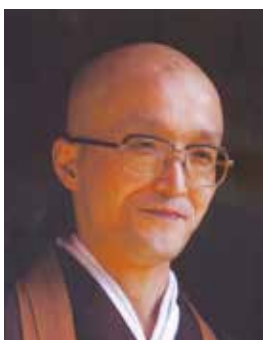
2003年、ストックホルムのスウェーデン王立科学アカデミーの外国人会員に選出される。ドイツ国立学術アカデミー レオポルディーナ正会員。



ジャネット・M・ウィン

マイクロソフトリサーチ コーポレート・バイスプレジデント
カーネギーメロン大学 コンピュータ科学
コンサルティング・プロフェッサー

2013年より現職。その他、カーネギーメロン大学コンサルティングプロフェッサー、アメリカ国立科学財団前アシスタントディレクターなど。計算的思考の一般化にも取り組む。



横田 南嶺

臨済宗大本山円覚寺派 管長

1964年和歌山県生まれ。1987年筑波大学卒業。卒業と同時に建仁寺僧堂で修行。1991年から円覚寺僧堂で修行、足立大進管長に師事。2010年臨済宗円覚寺派管長に就任。

※所属機関名及び職名はノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017 開催日時点のものです。

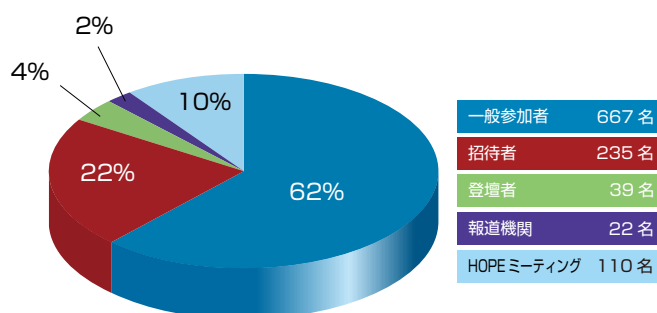
参加者データ

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017 には世界各国から 1,073 名が参加しました。また、会場での参加者だけでなく、多くの方がインターネット上のライブ・ストリーミングやソーシャル・メディアを通じてこのイベントに参加しました。ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017 における全ての講演、パネル・ディスカッションは次の URL 上で視聴が可能となっています。

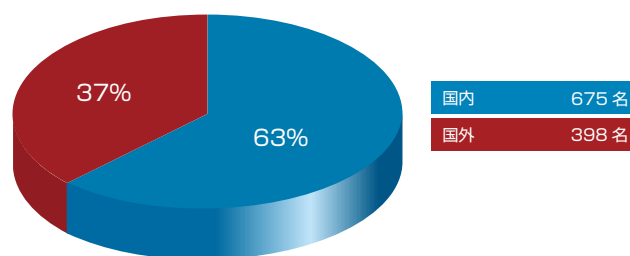
<https://www.youtube.com/nobeldialogue>

会場の参加者の内、63%は日本の参加者で、37%は外国の参加者であり、国際的なイベントとなりました。また、一般参加者の内、学生、あるいは大学・研究機関教職員の割合が50%以上を占め、分科会における質疑応答などにおいては、積極的な対話への参加が見られました。

参加者総数：1,073 名

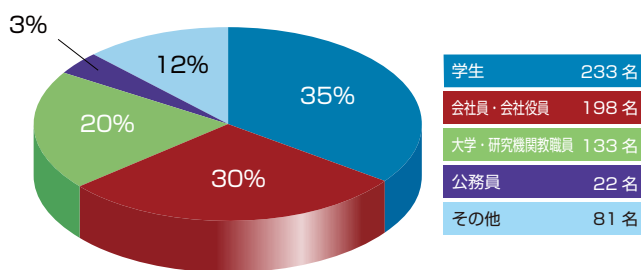


国内外別参加者数



※ HOPE ミーティングは、日本学術振興会が主催し、アジア・太平洋・アフリカ地域等から選抜された優秀な若手研究者約 100 名を対象に、ノーベル賞受賞者等との交流等を通じた人材育成を推進するものです。

一般参加者属性



国・地域別参加者数

(一般参加者及び HOPE ミーティング参加者 (派遣国))

アルジェリア	1	シンガポール	6	フィリピン	28
イスラエル	4	ジンバブエ	1	ブラジル	1
イラン	5	スイス	1	フランス	4
インド	16	スウェーデン	1	米国	4
インドネシア	93	スーダン	1	ベトナム	9
ウガンダ	1	スペイン	2	ベネズエラ	3
ウズベキスタン	1	スリランカ	3	ベルギー	1
英国	3	セネガル	1	ポーランド	1
エジプト	6	タイ	7	香港	1
エチオピア	2	台湾	7	マレーシア	5
オーストラリア	7	中国	21	南アフリカ	3
オーストリア	1	チリ	1	ミャンマー	7
オランダ	1	ドイツ	3	メキシコ	2
ガーナ	2	トルコ	1	モンゴル	4
カナダ	4	日本	463	リトアニア	2
韓国	7	ニュージーランド	5	リベリア	1
ギリシャ	2	ネパール	7	ロシア	1
ケニア	3	バングラデシュ	10	合計	777

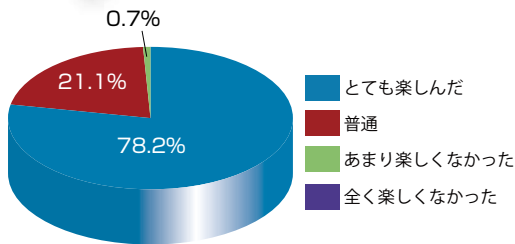
※国・地域名は50音順



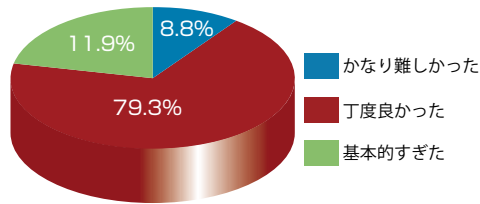
Photo: Alexander Mahmoud

アンケート結果

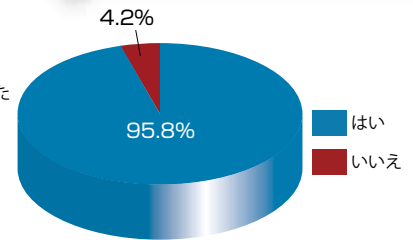
ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017をお楽しみいただけましたか？



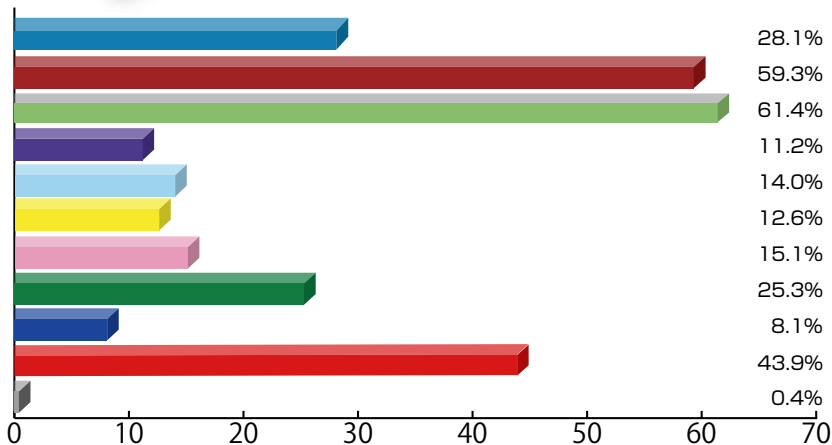
全体的な内容はいかがでしたか？



またノーベル・プライズ・ダイアログに参加したいですか？



面白かったプログラムは何ですか？



1. オープニング：未来の「知」に向けて
2. 「知」の地平を超えて：未来の「知」とは？
3. 未来の「知」への挑戦
- 4-1A. 企業・ビジネスのイノベーション
- 4-1B. 産業構造のイノベーション
- 4-2A. モビリティとアクセシビリティ
- 4-2B. 健康と福祉
- 4-3A. 人間と人工知能
- 4-3B. ELSI（倫理的・法的・社会的）課題
5. 未来に向けて
- 無回答

※なお、4-1Aから4-3Bについては、3つの分科会の内、各参加者が希望する1つの分科会に参加いただきました。

プログラムに関してご意見がございましたらお聞かせください。

- ・非常によく練られたアジェンダだと思いました。
- ・細切れの感があった。ある程度時間をとった講演があった方がよかった。
- ・テーマによるが大隅先生のように新受賞者の記念講演も組み入れてほしかった。
- ・ファシリテーターが大変優秀で、全体を通して有意義な内容だった。
- ・少しずつでもよいのでパネリストの専門の話（バックグラウンド）を聞きたかった。
- ・オーディエンスとパネリストの方々との対話時間があれば、なお良かったと感じた。
- ・人間の知性という大きなテーマについてさまざまな観点から考えられた。

- ・時代が変革している様子がわかり、大変面白かったです。
- ・とても高度な内容を、素人にも分かるような平易な言葉、解説で紹介してもらい、知的な刺激を受けました。
- ・これほどのスピーカーが一堂に揃っていることに驚きました。
- ・大変コンパクトかつ中身が充実しており感動しました。

当日の運営に関してご意見がございましたらお聞かせください。

- ・無駄がなく非常によかった。
- ・受付でスマートチェックインが利用できると良い。
- ・参加が叶わずWeb視聴でしたが、大変スムーズに楽しみました。
- ・受付の場所と会場が遠くてわかりにくかった。

※掲載しているのは、いただいた回答の一部です。

主催者

独立行政法人日本学術振興会



本会は、独立行政法人日本学術振興会法（平成14年12月13日法律第159号）に基づき、学術研究の助成、研究者の養成のための資金の支給、学術に関する国際交流の促進、その他学術の振興に関する事業を行うため、平成15年10月1日に設置された文部科学省所轄の独立行政法人です。

本会の前身は、天皇陛下から学術奨励のため文部大臣に下賜された150万円により、昭和7年12月に創設された財団法人日本学術振興会であり、その後、昭和42年9月に日本学術振興会法に基づき、特殊法人となりました。70年余にわたり我が国の学術振興を担う中核機関として様々な事業を展開してきましたが、平成15年10月、業務の弾力化・効率化を図り、研究者や学術研究機関へのサービスの一層の向上をめざして、独立行政法人として新たにスタートいたしました。

日本学術振興会は、我が国の学術振興の中核を担う機関として、科学研究費助成事業などの学術研究への助成や、特別研究員事業などの若手研究者養成を、研究者の自主性と研究の多様性を尊重しながら実施しています。また、世界に張り巡らされた学術関係機関ネットワークの主要な一員として、学術に関する国際交流の促進を積極的に行っています。

さらに近年は、大学改革を支援する事業も実施しており、学術研究の振興と人材育成のための活動を幅広く行う機関として発展を続けています。

日本学術振興会ウェブサイト <https://www.jsps.go.jp/index.html>

ノーベル・メディア AB



ノーベル・メディアは、ノーベル賞を受賞した業績についての知識を社会へ広め、アルフレッド・ノーベルのビジョンや遺産に沿って科学や文学、平和に対する関心を高める活動を行っています。

同社は、公式ウェブサイト「Nobelprize.org」やポッドキャストを含む放送、デジタルメディア、ノーベルプライズコンサート、さらには世界中で開催される、ノーベル賞受賞者が出演し人々にインスピレーションを与える講演イベントなどを、全世界の数多くのオーディエンスに届けています。

さらには、ノーベル賞授賞式に関する著作権のポートフォリオや映像の販売、生放送の配信権の管理も行っています。

公式ウェブサイト www.nobelprize.org

Twitter: @NobelPrize、Facebook: facebook.com/Nobelprize、YouTube: www.youtube.com/nobelprize

ノーベル財団

アルフレッド・ノーベルの遺言により、1900年に創設された私設財団です。主な活動は、ノーベルの遺産と長年培われてきたノーベル賞に関連する知的財産の管理です。

運営委員会

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017 運営委員会

委員長

安西 祐一郎 独立行政法人日本学術振興会 理事長
人工知能技術戦略会議 議長

副委員長

岩野 和生 株式会社三菱ケミカルホールディングス Chief Digital Officer

委員

川人 光男 株式会社国際電気通信基礎技術研究所脳情報通信総合研究所 所長

喜連川 優 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所 所長
東京大学生産技術研究所 教授

國吉 康夫 東京大学大学院情報理工学系研究科 教授
東京大学次世代知能科学研究センター (AI センター) センター長

辻井 潤一 国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究センター 研究センター長

藤山 知彦 国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター 上席フェロー

アドバイザー

利根川 進 国立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センター センター長

※所属機関名及び職名はノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017 開催日時点のものです。

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017 パートナー企業

ノーベルインターナショナルパートナー



3M社はノーベル・メディアとともに、科学教育の将来性と持続可能性などの地球規模の重要な問題に何年も光を当ててきました。このパートナーシップは、世界中の人々の生活に影響を及ぼす重大な問題について、皆様とともに学び、考え、意識することのできる機会を私たちに与えるものです。



スカニア社は研究と発展に強く焦点を当て、効率的で高機能な輸送策とその革新を先導しています。スカニア社がその広範にわたる対応力を維持し、自動車産業の先端の地位を保っていくために、3,500名以上の研究者が代替燃料や接続性、自動化、電化といった未来の鍵となる分野の最前線で働いています。



エリクソン社は世界をリードするコミュニケーションテクノロジーとサービスを提供する企業です。当社は世界中の持続的な社会において、より自由に学び、働き、生活することのできる効率的でリアルタイムなソリューションを有したネットワーク社会を実現しています。現在、エリクソンネットワークは、世界の通信網のうちの40%以上を占め、25億人以上の方が当社のネットワークカスタマーサポートを受けています。



ボルボ社は有数の自動車メーカーであり、自動安全運転技術の分野において新しいテクノロジーを革新的に発展させています。当社の研究開発に取り組んでいる6,000人の研究者が、3つの大陸にまたがって広く活躍しています。西スウェーデンにおいて自動運転の分野を強化するとともに、自動運転車向けソフトウェア開発の拠点を設立しています。

特別スポンサー



富士通は、日本に本社を置くグローバルなICT企業です。“Human Centric Intelligent Society”というビジョンを掲げ、幅広い領域のプロダクト、サービス、ソリューションを提供し、約16万人の社員が全世界100カ国以上でお客様とともに豊かで夢のある未来の実現に挑戦しています。



三井住友銀行は、平成13年4月にさくら銀行と住友銀行が合併して発足しました。国内有数の営業基盤、戦略実行のスピード、更には有力グループ会社群による金融サービス提供力に強みを持っています。三井住友フィナンシャルグループのもと、他のグループ各社と一体となって、お客様に質の高い複合金融サービスを提供していきます。

スポンサー



リクルートグループは、世界中の産業界と生活者に「まだ、ここがない、出会い。」を提供してまいります。これまで、情報誌やWEBサイト、カウンターサービスなどを通じて、生活者の方々の不満や不便、不安などといった「不」を解消し、新しい雇用機会の創出や消費拡大につながる行動のお手伝いをしてまいりました。今後も国内外の生活者と産業界に「まだ、ここがない、出会い。」を提供していくことを目指してまいります。



SCSK株式会社は、システム開発からITインフラ構築、ITマネジメント、BPO、ITハード・ソフト販売まで、ビジネスに必要なすべてのITサービスをフルラインアップでご提供します。また、世界各国における顧客のITシステム・ネットワークのサポート実績を活かし、グローバルITサービスカンパニーとしてさらなる飛躍を目指します。

後援

文部科学省、内閣府、総務省、外務省、経済産業省、スウェーデン大使館
国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人科学技術振興機構、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

寄附等 < 敬称略 >

旭化成株式会社、エヌメディア合同会社、花王株式会社、スウェーデンハウス株式会社、ソフトバンク株式会社、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、株式会社東芝、トヨタ自動車株式会社、日本電気株式会社、三菱電機株式会社、KDDI株式会社、日本アイ・ビー・エム株式会社 北城 恪太郎、松尾 淳、一般社団法人東京倶楽部（助成）

主催者広報活動実績

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017 広報件数

プレスリリース7、JSPS ウェブサイト8、JSPS メールマガジン9、JSPS 季刊誌3、SNS15 合計42

広報活動詳細

- 1 2015年12月14日 第1回プレスリリース "「ノーベル・プライズ・ダイアログ・東京2017」の開催について"
- 2 2015年12月14日 JSPS ウェブサイト 学振トピックス 「ノーベル・プライズ・ダイアログ・東京2017」開催について
- 3 2016年3月 JSPS Quarterly 55号 JSPS and Nobel Media AB Agreed to Hold Nobel Prize Dialogue Tokyo 2017
- 4 2016年6月17日 JSPS ウェブサイト 学振トピックス ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017の広告協賛・寄附のお願いを掲載しました
- 5 2016年7月4日 JSPS Monthly 2016年7月号 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2014の広告協賛・寄附のお願い(お知らせ)
- 6 2016年8月1日 JSPS Monthly 2016年8月号 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2015の広告協賛・寄附のお願い(お知らせ)
- 7 2016年9月5日 JSPS Monthly 2016年9月号 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2016の広告協賛・寄附のお願い(お知らせ)
- 8 2016年10月3日 JSPS Monthly 2016年10月号 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017の広告協賛・寄附のお願い(お知らせ)
- 9 2016年10月21日 第2回プレスリリース 特設ウェブサイトの開設のお知らせ
- 10 2016年10月21日 JSPS ウェブサイト 学振トピックス 「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017」特設ウェブサイトが開設されました
- 11 2016年10月21日 Facebook (JSPS Research Cooperation Division) ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017の特設ウェブサイトが開設されました
- 12 2016年11月7日 JSPS Monthly 2016年11月号 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017 (トピックス)
- 13 2016年12月5日 JSPS Monthly 2016年12月号 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017 (行事予定)
- 14 2016年12月7日 第3回プレスリリース 登壇予定者及び協賛企業等についてのお知らせ
- 15 2016年12月12日 JSPS ウェブサイト 学振トピックス 「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017」登壇予定者及び協賛企業等を公開しました
- 16 2016年12月 JSPS Quarterly 58号 Upcoming Nobel Prize Dialogue Tokyo 2017
- 17 2017年1月4日 JSPS Monthly 2017年1月号 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017 (行事予定)
- 18 2017年1月16日 第4回プレスリリース 一般参加登録について
- 19 2017年1月16日 JSPS ウェブサイト 学振トピックス 「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017」一般参加登録の受付を開始します
- 20 2017年1月17日 Facebook (JSPS Research Cooperation Division) ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017参加登録開始
- 21 2017年1月27日 JSPS ウェブサイト 学振トピックス 「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017」一般参加登録は締め切りました。
- 22 2017年2月6日 JSPS Monthly 2017年2月号 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017 (トピックス)
- 23 2017年2月8日 第5回プレスリリース 取材登録について
- 24 2017年2月8日 第6回プレスリリース 登壇者及びプログラムについて
- 25 2017年2月8日 Facebook (JSPS Research Cooperation Division) ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017参加登録終了
- 26 2017年2月9日 JSPS ウェブサイト 学振トピックス 「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017」登壇予定者及びプログラムを更新しました。
- 27 2017年2月15日 Facebook (Nobel Prize) Exploring the Future of Intelligence in Tokyo!
- 28 2017年2月17日 第7回プレスリリース 「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017」及び「第9回HOPEミーティング」合同レセプションについて
- 29 2017年2月17日 Twitter (Nobel Prize) Exploring the Future of Intelligence!
- 30 2017年2月22日 Facebook (Nobel Prize) Exploring the human brain with Susumu Tonegawa at Nobel Prize Dialogue Tokyo!
- 31 2017年2月22日 Twitter (Nobel Prize) Exploring the human brain with Susumu Tonegawa at Nobel Prize Dialogue Tokyo!
- 32 2017年2月24日 Facebook (Nobel Prize) Make sure to join the Dialogue in digital form!
- 33 2017年2月25日 Facebook (Nobel Prize) Exploring the Future of Intelligence!
- 34 2017年2月25日 Twitter (Nobel Prize) Exploring the Future of Intelligence.
- 35 2017年2月26日 Facebook (Nobel Prize) Jean-Pierre Sauvage discussing the Future of Intelligence at Nobel Prize Dialogue Tokyo.
- 36 2017年2月26日 Twitter (Nobel Prize) Jean-Pierre Sauvage discussing the Future of Intelligence at Nobel Prize Dialogue Tokyo.
- 37 2017年2月27日 Facebook (Nobel Prize) What is the Future of Intelligence?
- 38 2017年2月27日 Facebook (Nobel Prize) Will a robot ever be awarded the Nobel Prize?
- 39 2017年2月28日 Facebook (JSPS Research Cooperation Division) ノーベルプライズダイアログ東京2017を開催しました。
- 40 2017年3月 JSPS Quarterly 59号 Nobel Prize Dialogue Tokyo 2017
- 41 2017年3月2日 JSPS ウェブサイト 学振トピックス 「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017」を開催しました。
- 42 2017年3月6日 JSPS Monthly 2017年3月号 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2017 (トピックス)

制作物



ポスター (A2)・チラシ (A4) (日・英)



特設サイト (日・英)



JSPS ウェブサイト (日・英)



プログラム



ID カード



Photo: Alexander Mahmoud

Nobel Week Dialogue (ノーベル・ウィーク・ダイアログ) と日本開催の経緯

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京は、ノーベル財団の広報を担うノーベル・メディア AB がスウェーデンにおいて2012年から毎年ノーベル賞授賞式の前日に開催している一般向けの公開シンポジウムである「Nobel Week Dialogue (ノーベル・ウィーク・ダイアログ)」について、ノーベル側から日本での開催の可能性について打診があり、その後同財団や関係機関等との協議の結果、2015年にスウェーデン国外では初めて日本において、日本学術振興会及びノーベル・メディアの共同開催により開催されました。

ノーベル・ウィークダイアログの開催テーマ



2012年ノーベル・ウィーク・ダイアログ：

The Genetic Revolution and its Impact on Society

「生命科学が拓く未来と社会的インパクト」

第一回目のノーベル・ウィーク・ダイアログでは、35名のパネリストと1,100名の参加者がスウェーデンのストックホルムに集まりました。遺伝学やゲノム科学における過去半世紀にわたる進歩を振り返り、今日の社会との関連を考えるとともに、将来の動向に目を向けました。



2013年ノーベル・ウィーク・ダイアログ：

Exploring the Future of Energy

「エネルギーの未来を切り拓く」

初めてヨーテボリにおいて開催されたノーベル・ウィーク・ダイアログ2013では、エネルギーをテーマに、科学と社会の間に横たわる従来の境界線を越えた議論が行われました。



2014年ノーベル・ウィーク・ダイアログ：

The Age to Come

「来たる高齢化」

第3回目のノーベル・ウィーク・ダイアログはストックホルムで開催され、科学的・文化的側面から老化について論じられました。平均寿命を延ばすことが人類最大の目標の1つであることに疑いの余地はありませんが、一方で世界的な高齢化が着実に進むことにより、新たな挑戦と機会の幅が広がります。



2015年ノーベル・ウィーク・ダイアログ：

The Future of Intelligence

「知の未来」

知の未来は2015年にヨーテボリで行われたノーベル・ウィーク・ダイアログのテーマです。登壇者は「知とは何か」という問いについて、その多様性と複雑性、そして技術開発の急激な進展に焦点を当て、議論しました。



2016年ノーベル・ウィーク・ダイアログ：

Your Plate - Our Planet : The Future of Food

「あなたの食卓、私たちの惑星：食の未来」

第5回目のノーベル・ウィーク・ダイアログはストックホルムで開催され、参加者と登壇者は国際的持続可能性、貧困、栄養不良、食料廃棄といった問題を含め、食に関する議論を繰り広げました。

※ 上記の日本語タイトル、概要は、本会で翻訳したものです。

商標について

本誌上に表示された名称、表題、建物画像、トレードマーク、サービスマークおよびロゴは、ノーベル財団の登録商標または未登録商標です。これには、ノーベル賞® (Nobel Prize®)、ノーベルメダル® 意匠 (the Nobel Medal® design mark)、Nobelprize.org®、ノーベル・メディア® (Nobel Media®)、ノーベル博物館® (Nobel Museum®)、ノーベル博物館® (Nobelmuseet®)、ノーベル・ウィーク® (Nobel Week®)、ノーベル・ウィーク・ダイアログ (Nobel Week Dialogue) およびノーベル・プライズ・ダイアログ (Nobel Prize Dialogue) (合わせて以下「ノーベル財団商標」という) が含まれますが、これらに限定されません。ノーベル財団は、これらの商標の使用許可を最も厳しく制限しています。利用者は、あらかじめノーベル財団から書面での許可を取得しない限り、ノーベル財団商標を使用することはできません。また、本誌上には、第三者の商標も掲載されています。利用者は、あらかじめそれら商標の各所有者から書面での許可を取得しない限り、当該商標を使用することはできません。

本誌上のいかなる記載もノーベル財団商標を使用する権利または許可を明示的または黙示的に付与するものではなく、また、日本学術振興会が第三者商標の所有者に代わって権利または許可を付与する権限を有すると解釈できるものではないことを、利用者は認識し、承認したものとします。なお、本会は、利用者の商標を使用する権利が有効なものであるかどうかを確認する責任も、利用者のために当該権利を保証する責任も負わないものとします。そのため本会は、本誌上に掲載された情報を除き、住所、電話番号及びその他の連絡先を、商標使用の権利を有する第三者には提供しません。

著作権について

本誌上に掲載された写真、画像、図表、デザインおよび文書等（以下「本コンテンツ」という）はすべて、ノーベル・メディア AB の所有物、または法令もしくは第三者の同意に基づいて使用しているものです。

利用者は、ノーベル・メディア AB からの使用許可をあらかじめ書面で取得しない限り、本コンテンツの複製、頒布、表示、送信、改変、上演、翻案、もしくは本コンテンツの派生著作物を作成すること、またはその他の方法で使用することはできません。